

韓国・水原市に在学、在住の大学生18名が1月10日～1月19日の9泊10日の日程で来日し、「自然との共生をめざして～『BOSAI』から学ぶ日本文化」をテーマとしたプログラムに参加しました。一行はこのプログラムで静岡市沿岸部の津波防災施設を視察し静岡市の防災対策について学び、また、東日本大震災後に風評被害を受けた製茶会社を訪問し、静岡市の茶業の現状と課題について聴講及び意見交換を行いました。火山噴火や地震、津波等懸念される自然災害への対策をはじめ、地元大学生による防災教育カリキュラムに特に強い関心を示し、各々の関心事項や体験についてSNSを通じて対外発信を行いました。また、市内高校生や大学生との交流やホームステイで市民と交流をはかるほか、最終日の報告会では当プログラムで学んだ知見を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。



### 韓国人学生の感想

今回の訪日プログラムのテーマは、「日本の伝統文化」、「防災教育と産業」、「交流プログラム」に分けられます。伝統文化体験として、着物の試着と茶道体験、和太鼓体験、ほうとう作りをしました。駿河総合高校では、和太鼓で使う楽器を分かりやすく説明して下さったし、実際に太鼓を演奏することができました。防災教育と産業についても学ぶべき点が多々ありました。韓国とは多くの点で異なる日本の国土と自然環境、そして、日本が自然災害に対し、どのように対策を講じているかや、リスクがある自然環境を産業に取り入れ、活用している様子を実際に見学しました。富士山の噴火を鎮めるために浅間神社を建立したり、富士登山に訪れる人を案内するために御師町を作り、文化的発展を図ったこと、箱根の火山を利用した温泉文化について実際に見ることができたことが印象に残っています。大学では日本語を専攻しているものの、まだ十分とは言えない日本語力で水原についてのプレゼンを準備したり、高校生や大学生と交流したり、ホームステイをしたりしたことが、普段日本人と交流する機会の少ない自分にとって、お金を払ってもできない貴重な体験でした。おかげで日本人の友達もできたし、何より日本人と会話することに対する不安が払しょくされました。日本人と意見を交わしながら、国際交流のためにどのような姿勢を持つべきか考えさせられた学びの多い研修でした。

(京畿大学校日本語日本文学科2年生 イ・スンユン)



### 日本人学生の感想

2014年のセウォル号沈没事故の際に国家の安全神話が崩壊し、当時の韓国政府への不信感や衝撃がまだ癒えていない韓国では、事故を未然に防ぐ万全な体制を築くというより、個々人が自分の身をトラブルから避けることに意識が向きがちである印象を受けます。自然災害が日本ほど多くはないものの、日本の誇る安全性や危機管理体制を防災という観点から学びとることが出来たことは、韓国の若者に多くのことを考えさせ、自国に様々なアイデアやノウハウを持ち帰ってもらえたことと思います。静大でのディスカッションでは、日本語で一生懸命意見を述べようとする彼らの姿勢に感銘を受けました。言いたいことをうまく日本語で表現できずに悔しい思いをした人もいたようですが、帰国後日本語を勉強するモチベーションにも繋がったようです。韓国の学生は、K-POPの歌やダンスで私達を喜ばせるパフォーマンスを用意してくれました。大勢の初対面のオーディエンスを前にしても物怖じしない姿を見て、自分ももっとそうなりたと思いました。恥ずかしがり屋の日本人ですが、海外からお客さんを招き入れる際にはもっと彼らのように個性や特技を活かしたパフォーマンスが出来ればより良いおもてなしになったのかもしれませんが、そのためには私達日本人も日本文化への理解を深めなければならないと痛感しました。もし、またJENESYSで海外の学生が静岡に来ることになったら、自分ももっとユニークな方法で積極的に日本の魅力を発信できるようになりたいです。

(静岡大学人文学部3年生 小林タバサ)

